

学校伝染病 乳幼児期に多い感染症一覧

■ 第一種(まれだけど重大な病気)

- エボラ出血熱、クリミア・コンゴ熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱
- 急性灰白髄炎(ポリオ)、コレラ、ジフテリア、腸チフス、パラチフス、細菌性赤痢。
- 出席停止期間 治癒するまで

■ 第二種(よくある学校伝染病。放置しておけば広がってしまう可能性のある飛沫感染する感染症)

病名	流行している季節	主な症状	出席停止期間	潜伏期間
インフルエンザ	冬 1月～3月	高熱、のどの痛み、咳、鼻水、関節痛や筋肉痛、下痢や嘔吐。	熱が下がって2日後まで。	1～2日
百日咳		咳、くしゃみ、鼻水、咳き込んだ後に「ヒュー」と音をたてて長く息を吸い込む。	咳が出なくなるまで。	6～15日
麻疹(はしか)		発熱、くしゃみ、咳、鼻水、赤い発疹が、ほおの内側から始まり、全身に広がる。	熱が下がって3日後まで。	10～14日
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)		発熱、耳の下からあごにかけて腫れと痛み。	耳の下の腫れがひくまで。	2～3週間
風疹(三日はしか)		発熱、小さな赤い発疹が全身に出る。耳の後ろや、首のリンパ腺がはれる、のどの痛み、目の充血、せき。	発疹が消えるまで。	2～3週間
水痘(水ぼうそう)		発熱(熱が出ないこともある) 全身に発疹(頭皮や口の中まで):直計2～3ミリの赤い発疹→発疹の中央が水ぶくれになる・かゆい→黒いかさぶた	発疹が全てかさぶたになるまで。	2～3週間
咽頭結膜炎(プール熱)	夏	熱、咽の痛み、目のかゆみや充血、くしゃみ、腹痛や下痢、鼻水。	症状がなくなって2日後まで。	5～6日
結核(結核は空気感染)		37度前後の微熱、せき、だるさ。	医師の許可があるまで。	

■ 第三種(飛沫感染ではないが放置すれば広がってしまうもの)

- 腸管出血性大腸菌感染症
- 流行性角結膜炎
- 急性出血性結膜炎

■その他の伝染病（必要があれば施設長が医師の意見を聞き第三種として措置を講じられる） 登園届

病名	感染しやすい時期	主な症状	登園の目安	潜伏期間
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後一日間	発熱、のどのはれと痛み、全身に発疹(口の周りだけ出なくて白い)、イチゴ舌(舌に赤いぶつぶつ)。	抗菌薬内服後24～48時間が経過していること	2～4日
ウイルス性胃腸炎 (ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	症状のある間と症状消失後一週間(数週間ウイルスを排出している)	おう吐と下痢、発熱。下痢は酸っぱいにおいがして、粘液が混じっていたり、白っぽかったりすることもある	嘔吐下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること	1～3日
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	水ぶくれや赤い発疹が、手のひら・足の裏・口の中にできる。発熱。	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	2～9日
伝染性紅斑(リンゴ病)	発疹出現前の一週間	両方のほおに赤い発疹が出て、リンゴのようになる。腕や太ももに波模様の発疹。	全身状態の良いこと	17～18日
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の中に一か月程度ウイルスを排出している)	発熱、のどに水ぶくれができる、のどの痛み、だるさ。	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	2～7日
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	高熱、咳、たんがからむ、呼吸が苦しい。	発熱や激しい咳が収まっていること	2～3週間
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	鼻水、咳、風邪のような症状、ゼーゼーと息をする時	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと	2～8日
突発性発疹		発熱、解熱後に赤い発疹ができる。	解熱し機嫌がよく全身状態が良いこと	5～15日

■通常は出席停止の措置は必要でないと考えられる伝染病。

病名	流行している季節	主な症状	出席停止期間	潜伏期間
アタマジラミ		髪の毛に卵を生み一週間で成虫(2～3ミリ)になる。頭がかゆくなり、ボリボリかく。	医師の許可があるまで。	気付くまでに1月位かかる
水いぼ (伝染性軟性属腫)		皮膚と同じ色の直径1～3ミリのふくらみ(真中が少しへこんでいる)が、胸、わきの下、腕の内側などの皮膚の柔らかいところに出る。	自分のほかの部位にうつって増えるので少ないうちにとってしまった方がよい。	
とびひ(伝染性膿痂疹)	夏	湿疹などをかき壊したところに水ぶくれ、かゆみ。	水ぶくれがすべてかさぶたになるまで。	2～10日
冬季乳幼児嘔吐下痢症 (ロタウイルス下痢症)	冬(2歳までの子どもに多い)	おう吐、白っぽい下痢便、発熱。	嘔吐下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること	